

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671700346
法人名	株式会社 エクセレントケアシステム
事業所名	グループホームえくせれんと鴨島
所在地	徳島県吉野川市鴨島町内原161-2 (電話) 0883-26-1919

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 9 月 10 日

【情報提供票より】(平成 20 年 8 月 14 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤: 13人 非常勤: 3人 常勤換算: ユニットA 7 : ユニットB 7.5	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費11,000円 その他実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり		1,050 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 14 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 仁保会 鈴木内科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は国道から少し入った住宅街にあり、向かいの家では例年犬や猫の出産があり触れあうことが利用者の楽しみとなっている。地域密着型サービスとしての理念の意義を全員で認識して家庭的な環境と地域住民との交流のもと、その人らしく看取りまで暮らし続けられる支援がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での課題である「地域密着型サービスとしての理念」、「地域とのつきあい」は改善されている。「運営推進会議を活かした取り組み」、「職員の異動による影響への配慮」は改善されていない。</p>
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<p>運営者と管理者、職員全員で自己評価を行い全体会議で前年と比べてどう変わったか意見交換して質の高いサービスが提供できるよう努力している。</p>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は老人会員、民生委員、市職員などが参加している。</p>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>意見箱を設置している。家族の面会時や来訪時などに話し合い、意見や要望などの情報交換が行われている。</p>
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>地域の祭りや花火大会などの行事、清掃活動などに参加したり、小学生との交流がある。近隣住民による見守り支援もある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を作りパンフレットやホーム内に明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り時に理念の実現のための原則とその意味を考えながら唱和して確認している。利用者が自分らしくゆったりと暮らす支援がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市の広報紙や新聞記事などから情報を得て小学生との交流や地元のイベント、行事などに参加している。またボランティアを受け入れるなど地元との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者、全職員で自己評価を行い全体会議で前年と比べてどう変わったか意見交換して質の高いサービスの向上に努力している。また前回評価での課題について評価結果を点検し、質の確保や向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は老人会員、民生委員、市職員などが参加している。しかし開催頻度は4か月に1回となっている。また会議内容の記録は整理されておらず、職員への回覧も行われていない。運営推進会議と家族会の違いを認識しておらず有効に活用できていない。	○	運営推進会議は2か月に1回開催されたい。また会議録は要点を整理して記録するなどして回覧し、全職員で共有されたい。運営推進会議の目的を理解してサービスの向上に有効活用されるよう取り組まされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度運営状況などを報告して実態を伝え、電話での確認などを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は家族の来訪時や請求書送付時に併せて不定期に報告している。金銭は基本的に預からない体制であるが、やむを得ない場合はホームで立て替えて領収書により翌月に請求している。職員の異動などの報告は行われていない。	○	職員の異動などの報告は利用者の暮らしぶりや健康状態などと併せて報告することが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族の面会時や来訪時などに話し合い、意見や要望などの情報交換が行われている。しかし記録が残されていない。	○	意見や苦情は記録し、運営に活かされることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動が続くなどして利用者や家族に不安感が生じている。	○	異動や離職を最小限に抑えて利用者へのダメージを防ぐ配慮が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向け充実した内部研修がある。しかし個別の教育計画はなく、外部研修への参加も十分ではない。また研修報告書の回覧には職員の押印やサインがない。	○	職員を段階に応じて育成するためにも、計画を立てたり外部研修を受ける機会を確保するなどの配慮が望まれる。また研修内容を全職員で共有するために報告書の回覧には押印やサインなどを残されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や老人福祉施設協議会のグループホーム部会などに加入し、他事業所の職員と意見交換や情報交換などを行っている。また提携している施設から長期研修生が来ており共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人との面談後すぐ利用という形がほとんどであるが、入居当初は家族やそれまで関わったケアマネジャー、主治医にひとときの時間を過ごしてもらい安心できるようにしている。家族の面会も多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の思いや苦しみ、不安、喜びを知ることにより、ホームで過ごす全員がお互いに支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の担当を決め、日々の関わりの中で思いや希望、言葉、表情などから意向を把握している。夜勤時などを考慮して全職員が利用者の気持ちを理解できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を尊重して介護計画を作成し、確認してもらいサービスに繋げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直している。利用者の状態に変化があった場合などには随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、必要に応じて通院支援を行うなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う指針を作成して家族や医師、看護師を交えて話し合い、方針を定めて全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげなく目立たない言葉かけや対応に配慮するように心がけ実践されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや散歩など一人ひとりの状態や思いに配慮しながら利用者のペースに合わせた支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルで同じものを一緒に食べて食事時間を共に楽しんでいる。家庭菜園の野菜の下ごしらえを一緒にすることもある。献立は利用者の希望を聞いて作成している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事前に声かけを行い入浴日や時間をできるだけ希望にそったものにしていく。入浴剤を使用するなど一人ひとりの希望にそって利用者のペースにあわせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや調理の手伝いなど得意分野で力を発揮してもらえるよう役割を分担している。一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけ日常生活の中での場面づくりに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の気分、体調などに応じて散歩に出かけるなど日常的に外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内は施錠していない。利用者の行動に注意して外出しそうなときは止めずに声かけしたり、一緒についていくなどして安全面に配慮した工夫がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定した実践的な訓練を消防署や職員、利用者が一緒に実施している。またマニュアルも作成している。日頃から地域住民や警察などと連携をとりながら協力体制を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつ等の決まった時間帯に事業所が提供する三食の摂取量は記録されている。しかし、間食や1日の水分摂取量が把握されていない。また献立は利用者職員が相談して決めており、専門家によるアドバイスなどは受けていない。	○	決められた時間帯以外に飲食した摂取量も把握して記録に残すなどの取り組みが望まれる。また専門家による栄養状態などのアドバイスを受けることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、食堂には空気清浄機が設置され、季節の花が飾られ快適に過ごす空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやイス、写真など利用者の馴染みの物が配置され居心地よく過ごせる配慮がなされている。		